

## 子どもたちの心の中に非行の種をまかないために

小林 久士

香川県警察本部生活安全部  
人身安全・少年課長

香川県警では、乳幼児期の保護者との関わりが、その後の少年の問題行動に大きく影響するという観点から、県下の幼稚園等で保護者を対象とした「チャイルドケア教室」を実施しています。

これは、将来、子どもを非行に走らせないための幼児期における保護者の姿勢についての話を中心に、児童虐待や最近問題になっている子どものスマホ依存にも触れる内容となっています。

今回は、その内容の一部を抜粋してご紹介します。

将来、子どもが非行に走ることなく育つように、『いま、できること』『いま、気を付けること』は何だと思いませんか？

ゲーム・スマホの  
禁止？

怒るときに  
怒鳴る？叩く？



厳しいしつけ？

何でも許す？

### あいさつの大切さ

「あいさつ」は、コミュニケーションの一番の手段であり、良好な人間関係を築くためにとても大切なものです。「あいさつ」を学ぶことは、相手の気持ちに気付き、思いやるきっかけにもつながります。

「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」「いただきます」など、日頃から保護者が実践し、子どもの手本となるように心がけましょう。

### お手伝いの大切さ

小さい頃から、年齢に合った「お手伝い」をすることは、子どもたちが家族の一員であると感じ、うまくできなかったことができるようになる達成感や、同じことを毎日繰り返して継続する力を養うためにとても大切です。

子どもたちがお手伝いをしてくれたら、「ありがとう」「助かったよ」などの一声を忘れずに。

## がまんさせることの大切さ

私たちは、様々なルールの中で生活しています。

ルールを守るためには、「がまん」をしなければいけないこともあるのだということを身に付けていかなければなりません。

日頃から「がまん」することができない子どもは、やがて知らず知らずのうちに、ルールを破ってでも欲求を満たすようになり、ルールを破ることに抵抗がなくなります。

そして、他人の物を盗んだり、暴力を振るったりしてでも、自分の欲しいものを手に入れるなどの方法を選ぶようになりがちです。この「がまんする」ことを、小さい頃から身につけさせることが大事です。

「がまん」ができた時はしっかり褒め、認めてあげることが大切です。

## 大人が感情のままに子どもを怒ったら・・・

感情のままに、子どもを怒鳴りつけるような怒り方を繰り返していると、子どもは、無気力になったり、ストレスやイライラが積もって攻撃的になったりします。

そして思春期の頃になると、物を盗むことで満足感を得ようとしたり、感情をコントロールできずに物事を暴力で解決しようとしたり、弱い者いじめをすることで、自分の存在価値を示そうとしたりすることもあります。

また、子どもに対する暴力行為はもちろんのこと、著しい暴言や拒絶的な対応、長時間の放置などは、私たち大人が子どもに対して絶対にしてはいけない虐待行為です。

自分はどうだろうかと一度振り返ってみましょう。

## スマホの使い方

身近にあるスマホだからこそ、小さい頃からその利用時間や利用方法について、親子でルールを決め、それを守ることが大事になってきます。

子どもにいつから持たせるかではなく、子どもが安全に利用するために、保護者として何を考えるかを考えていきましょう。

## 『いま』が大切

子どもとのコミュニケーションや、ルールを守ることの大切さなど、「まだ小さいから大丈夫だろう」「言っても分からないだろう」ではなく、「まだ小さいからこそ、丁寧に子育てしていこう」という思いで、子どもと関わっていくことが大切です。

